

2015年3月22日 於NOF新宿南口ビル セミナールームA

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシー フォーラム2

子どもたちのリテラシーを 多面的にとらえる

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシープロジェクト

H26-29 科学研究費(基盤B) 課題番号26284071 代表:東京学芸大学齋藤ひろみ

研究課題:地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

開会 13:00

1 発題・ディスカッション「リテラシーを多面的にとらえる」 3:10-

(1) 作文の測定方法 森 篤嗣(帝塚山大学)

(2) 話し言葉の指標選定とその抽出システム

岩田一成(聖心女子大学)

(3) 子どもは文法をどのように作るのか? —認知言語学の
観点から 橋本ゆかり(横浜国立大学)

2 報告「日本生育外国人児童の作文の縦断調査の結果 15:20—

科学研究費(C)H23-25の報告, (B)H26-29の報告

①文章構成(エピソード分析)②表記の誤り ③文法力の発達

齋藤ひろみ・阿部志野歩・菅原雅枝・鳶田陽子・北澤尚

(東京学芸大学科研メンバー)

閉会 16:30

国内の年少者日本語教育の新たな局面

外国籍児童生徒への日本語教育

⇒文化間移動をし(現地の言語で教育を受ける)

「多様な言語的文化的背景をもつ子どもたち」への

ことばの教育

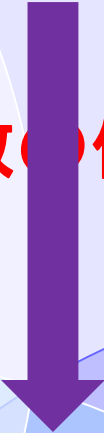
リテラシー発達の重要性

- ①読み書きの力
- ②学習参加の力としての言語の力
- ③複数の言語・文化の総合力としての言語の力
- ④自律的に学び、自分の明日を切り開く言語の力、
- ⑤異なる他者と協働する力としての言語の力
- ⑥批判的思考力をもち社会を変革する言語の力

OECD: 自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するためにテキストを理解し、活用し、深く考える能力

キー・コンピテンシー

- ①社会的に異質な集団で交流すること
- ②自律的に活動すること
- ③道具を相互作用的に用いること

- ①「ことばの力」発達をリテラシーという概念で捉える
 - ②子どもの総合的な発達の一部としてリテラシーの発達を追いかける
 - ③リテラシーの多面性・総合性を重視し、複数の側面を多様な方法で補完的に測定する
 - ④教育文脈での意味を積極的に探る
- 

- ・読み書きの知識・技能に限定したものではない
(言語能力を一部分の知識・技能に焦点化して測定するものではない)
- ・子どもたちの成長・発達との関係で言語能力を捉える
- ・社会化や認知的側面に関連付けて言語能力を捉える

3つの科研プロジェクトからの報告

(1) H22-25年度 科学研究費基盤研究(C) 2352061

「日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する基礎研究—日本語作文の縦断調査—」(代表: 齋藤)

(2) H24-28年度 科学研究費基盤研究(B) 24320094

「外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究—何もなくさない日本語教育を目指して—」(代表: 真嶋)

(3) H22-25年度 科学研究費基盤研究(B) 22402049

「日系国際児の二言語形成過程の質的研究」
(代表: 柴山真琴; 大妻女子大学)

- 外国人集住地域の学校1校の日本生育外国人児童
- 日本人児童との比較、母国生・来日児童との比較
- 2-6年生の出来事作文（6年分の作文データ）
- 横断的＋縦断的調査
学年グループで／入学年度グループで
- 量的分析と質的分析
産出量と文の複雑さ／誤用、表記、語彙、内容分析
⇒ 第2部の報告（主にH22-24の調査結果）

そして H25-29年度

更なるチャレンジを！

・・・前半の発題・ディスカッション

**「多様な言語文化背景をもつ子どもたちの
リテラシーを多面的にとらえる」うえで
私たちのそれぞれの関心や
アプローチの方法(発題内容)は、
どのような意味や役割をもつのか？**